

ブドウ白紋羽病！ 知っていれば簡単！ 防除対策

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当 井手 洋一

し被害が生じています。

【ポイント一・白紋羽病菌は粗大有機物で繁殖する】

【ポイント二・根冠部を軽く掘り上げよう】

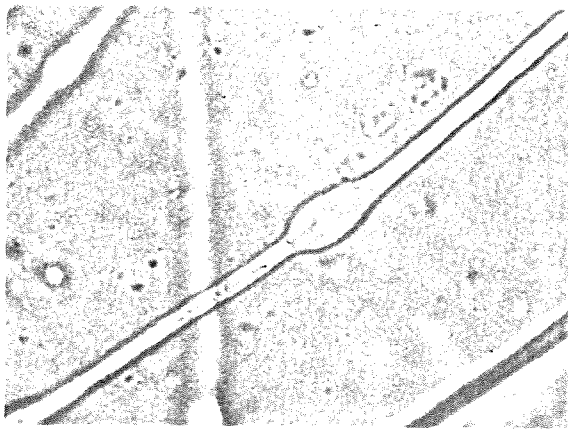
最近、ハウスブドウで、「樹勢が衰えて樹が枯れるのですが、一休何が原因でしょうか？」という相談を受けます。現場に行って根を掘り上げると白い菌糸が寄生しており、顕微鏡で観察すると洋なし型の菌糸が見えます【写真一】。この病気の正体は「白紋羽病」という病気です。樹を枯らす恐ろしい病気ですが、対策を知っていればそう恐くありません。ナシでは以前から問題となっていました。最近では適切な対策が取られるようになり、現在では被害拡大を免れています。それではブドウでの対策のポイントを紹介しましょう。

白紋羽病菌は「腐生菌」という仲間

間に分類されます。腐生菌とは枯れた樹木等を餌として生存する菌の総称です。このため、せん定枝、未完熟堆肥を根の周囲に鋤き混んだりすると、一気に増殖してブドウの根にも感染するようになります。土作りのために有機物を投入することは必要ですが、土の中に鋤き混まず根冠から1m程度のところに堆積させるだけにとどめておいてください。また、できる限り完熟に近いものを使用してください。現に他県のハウスブドウ産地でも未完熟堆肥を大量に土中に投入した園で白紋羽病が多発

根冠部は根から吸収した養水分が集中する場所、即ち人間では心臓部です。ここに白紋羽病が感染すると樹はたちまち枯れてしまいます。このため、ナシでは根の周りを掘り上げて根部を露出させる方法がとられています。

本県のブドウでこの方法を取り入れている方はほとんどいないようですが、岡山で白紋羽病が発生した圃場では一部取り入れられ、好評を得ているようです。佐賀でも白紋羽病が発生している圃場では是非実践してください。



写真一 白紋羽病の菌糸

第1表 白紋羽病菌に対するフロンスайдSC500倍液の予防および治療効果（ナシでの実験例）

白紋羽病菌接種 から薬剤処理までの期間	薬液処理前の菌系の 付着	皮層内への菌の侵入の 有無（目視）	発病樹数／調査樹数
0日間	なし	なし	0／3
14日間	根部の約3割に付着	なし	3／3
28日間	根部の約8割に付着	根部の約2割に侵入	3／3



写真2 フロンスайдSCは、かん注ノズルで十分な量をかん注する。

【ポイント三・フロンスайдSCの特性を知ろう】

白紋羽病に最も高い薬剤は「フロンスайдSC」です。ただし、効果が高いからといって、今にも枯れそうな樹が復活するわけではありません。あくまでも予防効果に優れているのです。第一表で示すように白紋羽病菌が感染した後では効果を発揮できません。他にも白紋羽病に登録のある殺菌剤はありますが、いずれも予防効果主体です。

しかし、フロンスайдSCは土壌中で長期にわたり効果が保持される点で、非常に優秀な薬剤なのです。トップジンM等の薬剤だと残効は二、三か月程度ですが、フロンスайдSCの場合、二、三年の残効が期待できます。

なお、土壌中での残効が長いのですが、土中の水をつたって広く移動することはありません。また、根から吸収されて果実へ成分が移行することはありませんのでご安心ください。

【ポイント四・フロンスайдSCを上手に使う】

フロンスайдSCには高い予防効果がありませんので、白紋羽病で枯れた跡に新しく苗木を植え付ける場合は必ず、五〇〇／一、〇〇〇倍液を灌注処理してください。また、白紋羽病に感染した樹には五〇〇倍液を灌注処理してください。

ただし、助かるのは根部の三分の一以下しか感染していない軽症樹までです。根部の半分以上が犯された樹で治る確率は五〇％です。

また、白紋羽病は一本感染した樹があると、その周囲の樹にだいに感染していく傾向があります。このため、感染樹周囲の健全な樹に処理してやるのが非常に重要です。周囲の健全な樹に処理する場合は一、〇〇〇倍液で十分です。

【ポイント五・必ず灌注ノズルを使うこと】

フロンスайдSCを処理する場合、ホース等でかけ流すだけでは土中に薬液が十分に到達しないので駄目です。必ず灌注ノズルを使用し、樹幹を中心に五〇cmノ一mの広さ、深さ三〇cmの範囲に十分量を灌注してく

ださい【写真2】。処理量は樹や土壌の状態によってまちまちですが、一樹あたり五〇〜一〇〇ℓが必要で、特に、人間の心臓部にあたる樹幹真下の分岐部付近には十分量を処理してください。なお、五〇〇倍液で一〇〇ℓ処理する場合、二、〇〇〇円程度の費用を要します。

【ポイント六・早期発見・早期防除 および液肥の積極的な混用を】

白紋羽病対策は早期発見、早期防除が基本です。フロンサイドSCは収穫六〇日前まで使用できますので、安全使用基準の範囲内で見つけしだいすぐに処理しましょう。もし生育期に処理される場合は、樹勢回復を目的として液肥を積極的に混用しましょう。安くあげるなら尿素五〇〇倍液で十分です。

【ポイント七・再処理を忘れずに】

フロンサイドSCは残効が長い薬剤であることを述べましたが、いつかその効果は消失します。ナシでの試験事例をみると二〜三年は効果が持続しますので、処理二〜三年後を再処理の目安としてください。

ただし、残効が消失しても、新しく菌が感染するまでに数年を要する

ようですので、根部を軽く掘ってみて根部に新たに白紋羽病菌が感染していないようであれば、処理時期を遅らせて結構です。このように、根冠部を露出させておくことは菌の観察を容易にする上でも重要なのです。

【ポイント八・樹勢が弱い樹 では全摘果を行いましょ】

白紋羽病が感染し根の被害部が三分の一度程度にもかかわらず、地上部の樹勢が弱っている場合は思い切った果実を全部落としてください。フロンサイドSCを処理しても、そのまま着果させたままだと、樹勢の回復は望めませんが、全摘果を行うと翌年に回復する場合があります。



以上の八つのポイントを守れば、ブドウで白紋羽病対策はそう難しくありません。必ず実行してください。

また、白紋羽病は「人間が作り出した病気」のひとつにあげられています。白紋羽病の場合、人間が変に粗大有機物を多用したり、樹に負担をかけなければ発病しない病気なのです。

あなたは樹をいたわってますか？